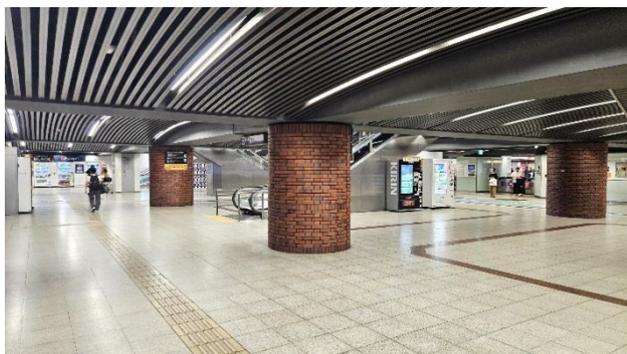


関西国際空港直結の当社最大のターミナル
難波駅2階中央改札口 改札内コンコース・案内サインシステムの
リニューアルが完了しました



改修前の中央改札口



改修後の中央改札口

南海電気鉄道株式会社(社長:岡嶋 信行、以下「南海電鉄」)では、当社最大のターミナルである難波駅の2階中央改札口 コンコースのリニューアル工事を完了し、9月27日(土)始発列車より供用を開始しました。

今回のリニューアルでは、柱レンガタイルや床タイルを撤去し、曲線を活かした白い柱が際立つ明るい駅を創出しました。また、コンコース内全体に柱や天井を伝うライン照明を取り入れました。こうした次世代的な駅空間により、140周年を迎えた南海電鉄の新時代の幕開けを表現しました。

リニューアルの概要

① 設計コンセプト「LOOP」を象徴する柱デザイン

LOOP LINE(多様性を巻き込む進化・循環)とWHITE LOOP(大阪・なんばの活力を際立たせる白)をコンセプトに、明るく洗練された包容力のある空間を目指しました。人と街の多様性を受け入れ、進化・循環を続ける駅の姿を象徴するものとして、構内に立ち並ぶ柱は「LOOP(円)」を重ね合わせたデザインとしました。



曲線的な柱デザインとライン照明



柱は内外の面で輝きが異なる

② 駅構内の案内サインの見直し

今回のリニューアルに合わせて、駅構内案内サインシステムを全面的に見直し、視認性と可読性を向上させた新サインを先行的に設置しました。新サインの特徴は、盤面上部のアクセントラインです。路線別に分けられたラインカラーは直感的な案内情報の識別を手助けするほか、角を削ったアイコンックなフォルムはスタイリッシュさと柔らかさを両立しています。番線を表す数字も、アクセントライン同様に角を削ったオリジナルフォントとし、階段部にはこれを大きく掲示しました。

この案内サインをもとに、今後、各駅へと展開予定です。



和文・英文ともに可読性の高いサイン



大きな番線表示で案内性を向上

③ 改札前混雑の緩和を目指した椅子等の設置

南海本線側エリア(西側)は、難波と関西空港を結ぶ特急「ラピート」のホームにもつながっており、これまでは大きな手荷物を持つお客さまが集中して改札口に向かうことで、改札口周辺での混雑が課題となっていました。そこで、コンコースの壁際に椅子や大型マップ・アート作品を設置する等、お客さまの通行動線と滞留場所を整理する施策を行うことで、改札口周辺の混雑緩和を図ります。

椅子の設置にあたっては昨年度実験設置を行い、利用者の行動傾向や滞留の様子を観察・分析しました。その結果を踏まえた形状や配置としつつ、駅空間を彩る個性的な椅子を導入しました。



大型マップと椅子を設置



椅子とアートで駅を彩る



(担当者コメント)

約3年にわたる本格的な計画と工事を経て、無事にリニューアルをお披露目できたことに安堵しております。全体方針の策定から細部に至るまで、幾度となく議論を重ねてまいりました。皆さまに長く愛される駅へとつながれば、大変嬉しく思います。

今回のリニューアルでは、最大のターミナル駅の改修という貴重な機会を活かし、空間そのものの刷新に加えて、サインシステム更新をはじめとした複数のプロジェクトを並行して推進してきました。サイン以外にも「新しい南海」を実現するためのさまざまな仕掛けを計画しております。今後とも、ぜひご期待いただければ幸いです。

参考・難波駅について

難波駅はなんばエリアの街づくり方針である「グレーターなんばビジョン」の最重要拠点でもあります。今回のリニューアルにより、難波駅のメインエントランスの1つである改札口は、“人をひきつけ続ける次代のなんば”に相応しい正面玄関となり、なんばエリア全体の魅力向上と都市回遊性を高めることを目指します。

【基本情報】

開業：1885年12月29日

住所：大阪市中央区難波五丁目1番60号

2024年度1日平均乗降人員：225,409人

難波駅2階中央改札口改札内コンコース面積：約1,920㎡

【今後の予定】

難波駅新観光列車専用「0番線のりば」改修工事についても、2025年8月1日より工事を開始しており、2025年度末の完成を予定しております。

※2025年7月1日、難波駅新観光列車専用「0番線のりば」報道発表

(<https://www.nankai.co.jp/lib/company/news/pdf/250701.pdf>)

以上